

## 小樽商科大学における研究活動に係る行動規範

(平成19年11月2日学長裁定)

国立大学法人小樽商科大学（以下「本学」という。）は、本学の学術研究の信頼性及び公正性を確保し、もって本学の学術研究の社会に対する説明責任を果たすことを目的として、本学における研究活動を担うすべての者に求められる行動規範をここに定める。

本学において、研究活動を行う者（以下「研究者」という。）及び本学の研究活動を担うすべての者（以下「教職員」という。）は、この規範を遵守しなければならない。

### （教職員の責務）

- 1 教職員は、本学における研究活動が国立大学法人運営費交付金、科学研究費補助金などの国費や外部から受け入れた研究資金によって支えられていることを自覚し、本学の研究活動を通じて国民の負託にこたえる責務を有する。

### （研究者の責任）

- 2 研究者は、自らが生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。

### （研究者の行動）

- 3 研究者は、学術研究の自立性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に正直、誠実に判断し、行動する。また、研究によって生み出される知の正確さや正当性を、科学的に示す最善の努力をすると共に、研究者コミュニティ、特に自らの専門領域における研究者相互の評価に積極的に参加する。

### （自己の研鑽）

- 4 研究者は、自らの専門知識・能力・技芸の維持向上に努めるとともに、科学技術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解し、常に最善の判断と姿勢を示すようにたゆまず努力する。

### （説明と公開）

- 5 研究者は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表するとともに、社会との建設的な対話を築くように努める。

### （研究活動）

- 6 研究者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本規範の趣旨に沿って誠実に行動する。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為を為さず、また加担しない。

### （研究環境の整備）

- 7 研究者は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、研究者コミュニティ及び自らの所属組織の研究環境の資的向上に積極的に取り組む。また、これを達成するために社会の理解と協力が得られるよう努める。

### （法令の遵守）

- 8 教職員は、研究の実施、研究費の使用等に当たっては、法令や関係規則を遵守する。

(研究協力者などへの配慮)

- 9 研究者は、研究への協力者などの人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物などに対しては、真摯な態度でこれを扱う。

(他者との関係)

- 10 研究者は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知的成果などの業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重する。

(差別の排除)

- 11 研究者は、研究・教育・学会活動において、人種、性、地位、思想・宗教などによって個人を差別せず、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重する。

(利益相反)

- 12 教職員は、本学の研究活動において、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。